

にっぽんがある場所

鳥取へ



明治、大正、昭和が呼吸している町

鳥取県出身のショッパー編集担当者が、その魅力を伝えるシリーズ。今回は県中部です。

を法力で投げ入れた、るといわれるラドン含有が世界屈指の同温泉を、今回は「旬彩の宿・いわゆ（写真6、8）」で実感。翌日、頑固な肩こりがなくなっていたのは驚きました。

「日本」危ない!? 国宝鑑賞いかが

もし私が鳥取県を

旅する人を案内するとして、その人が健脚ならば、迷わず三朝町の三徳山投入堂

宝鑑賞」の呼び名にうなずきます。しかしながら、苦行の後に現れるお堂の姿は実にありがたく、向かい立てば、日ごろの悩みを断ち無心になった自分に出会うはずです（積雪のため4月から開山予定。ふもとは河原に風情ある三朝温泉が。このレトロ感は、

倉吉市へ。白壁土蔵群・赤瓦を歩くとレトロな時代へタイムスリップします。「この手の観光地はほかにも」と思われるかもしれませんが、このレトロ感、

レトロな日常がそこにある

（写真1）に連れて行くでしょう。断崖絶壁に御座（おわ）すお堂は、一体どうやって建てられたのか、摩訶（か）不思議。平安後期、ふもとで組み立てたお堂

新陳代謝が活発にな

続いて山を下りて



◆とっておきスイーツ

「打吹公園だんご」

石谷精華堂の3色串だんご。すっきりとした上品な甘さが世代を問わず人気です。時間が経ってもモチモチ感が続くのは、練りに時間をかけているためか。

プレゼント

打吹公園だんごを5人にプレゼントします。希望者は、〒、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、はがきかFAX (052・209・9372) で、〒460・0001 名古屋市中区三の丸1・5・2 中日ショッパー「鳥取県プレゼント だんご係」まで。3/19 (水) 必着。

案内、感動もの。昔も今も変わらずここに染み込んだ本物です。一つずつ型で焼く白いたい焼きには子どもたちが群がり、レトロな看板の下には家が構え、名物の「餅しゃぶ」は「町屋を残すべき」と始められた店（写真2、3、4、5、7）。

まったくこの町では、明治、大正、昭和がしっかりと呼吸しているのです。

※後編は4月24日号で、今回の詳しい旅日記を公開中。

http://shopper.chunichi.co.jpへアクセスを！

●問い合わせ

鳥取県名古屋事務所
所（中区栄 中日ビル4階）電話052・262・5411
または、とっとり梨の花温泉郷広域観光協議会 電話090・22・8158へ。